

1. 科目名 (単位 数)	異文化コミュニケーション教育 (2単位)	3. 科目番号	EIJP2171
2. 授業担当教員	越野 香子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	国際教育コース2年生必修科目		
7. 講義概要	異文化コミュニケーションは、異文化環境下でのコミュニケーションや文化背景が異なる者同士によるコミュニケーション事象などを対象としている。グローバル化の進む国際社会では、越境する人々によって教育環境も多様化し、異文化コミュニケーションの機会は増加している。 本講義では、教育場面での異文化の対人関係を取り上げながら、教育の現状や文化とコミュニケーションの関係、またその影響や対応などについて考えていく。		
8. 学習目標	1. 文化とコミュニケーションの関係について理解することができる。 2. 多様な教育環境について理解することができる。 3. 教育場面における文化の影響について理解することができる。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 各回の事前学習と事後学習を参照し、予習と復習をしておく。 2. ルールの違いや行動の意味について考察する。 3. 自身のコミュニケーション行動とともに、情動についても振り返って分析する。 詳細については、講義内で指示する。 4. 試験・レポートについては、授業中にテーマについてその都度説明する。		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書、2013。 【参考書】 講義の中で適宜紹介する。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 (学習目標) 1. 文化とコミュニケーションの関係について理解することができたか。 2. 多様な教育環境について理解することができたか。 3. 教育場面における文化の影響について理解することができたか。 ○評定方法 以下の点を総合的に評価する。 1. 授業態度 総合点の 30%: 積極的な参加、課題の提出状況などにより評価。 2. グループ・ワーク 総合点の 30%: 共同作業での発言、役割貢献などにより評価。 3. 試験・レポート 総合点の 40%: 基礎知識の理解、自身の意見の表出の程度により評価。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は原則として認められない。		
12. 受講生への メッセージ	1. シラバスを熟読し、講義の学習目標、成績評価等についてよく把握しておくこと。 2. iphone, smartphone, 携帯電話, その他通信機能のあるノートパソコンやタブレットの電源は切り、かばんの中にしまうこと。 3. 本学規定により、3/4 (4 回) 以上欠席すると単位の修得が認められないので留意しておくこと (遅延については、遅延証明書を当日又は次回講義までに担当教員に提出すること。遅延の累計回数が多い場合、遅延を認めない場合もあるため、注意すること)。 4. 成績総合評価の内「授業への参加態度」は、授業での積極的参加 (発言等) も含むため、分からないことは積極的に質問し、意見を述べることを勧める。 5. 不正行為への対応等について、本学は、「東京福祉大学・短期大学部 研究活動における不正行為への対応等に関する規程」を平成 26 年 12 月 4 日に制定しています。詳しくは、本学ホームページの大学紹介・研究活動のところを参照してください。文部科学省のガイドラインでは、「学生に対する研究倫理教育」を行うことが要請されているので、皆さんは、大学で自分の学習成果をレポートにしたり発表したりしていくうえでの倫理、つまり、守らなければならない事があります。不正行為としては、1. 捏造(ねつぞう)、2. 改ざん、3. 盗用があります。不正行為については、適宜、処置がなされるので、これらについて十分に注意をして、勉学に臨んでください。		
13. オフィスアワー	授業時に通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション: 授業の概要、授業の進め方	事前学習	シラバスに目を通し、講義内容を把握しておく。
		事後学習	「異文化」について分かったことを自分なりにまとめておく。
第 2 回	異文化トレーニングの背景	事前学習	教科書 pp. 1~9 を読んでおく。異文化環境下で生活するために必要なことはなにか考えてみる。
		事後学習	「コミュニケーション」について分かったことを自分なりにまとめておく。
第 3 回	社会的に構築されたアイデンティティとは	事前学習	教科書 pp. 11~18 を読んでおく。「文化」を考えるとどのような捉え方があるのか考えてみる。

		事後学習	「ウチ」と「ソト」の文化について分かったことを自分なりにまとめておく。
第4回	コミュニケーションと相互作用性	事前学習	教科書 pp. 19～28 を読んでおく。自身が所属する社会で必要とされる能力とはなにか考えてみる。
		事後学習	それぞれ異なった文脈でのコミュニケーション方について整理しておく。
第5回	スキル・トレーニング1:「双方向対話型」のコミュニケーション法をもとにした場面を設定し、ペアで実演する。	事前学習	各ペア実演のための準備をする。
		事後学習	実演した内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第6回	「多数派・主流派(マジョリティ)」と「少数派(マイノリティ)」であることとは	事前学習	教科書 pp. 29～36 を読んでおく。
		事後学習	社会における「多数派」と「少数派」であることの違いについて考えをまとめ、これを配慮したうえでのコミュニケーションについて引き続き考える
第7回	スキル・トレーニング2:「多数派」と「少数派」間のコミュニケーションの場面を設定し、ペアで実演する	事前学習	各ペア実演のための準備をする。
		事後学習	実演した内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第8回	社会・文化的アイデンティティの特徴	事前学習	教科書 pp. 44～58 を読んでおく
		事後学習	アイデンティティが社会的に構築されるということはどういうことなのか、考えをまとめる。
第9回	「帰属意識」と「私観」がコミュニケーションに与える影響	事前学習	教科書 pp. 44～58 を読んでおく。
		事後学習	コミュニケーションに「帰属意識」と「私観」が与える影響について更に考える。
第10回	スキル・トレーニング3:「帰属意識」と「私観」が与える影響について配慮されたコミュニケーションの場面を設定し、ペアで実演する。	事前学習	各ペア実演のための準備をする。
		事後学習	実演した内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第11回	「偏見」「ステレオタイプ」「差別」とコミュニケーション	事前学習	教科書 pp. 61～73 を読んでおく。
		事後学習	「偏見」「ステレオタイプ」「差別」はコミュニケーションのどのように影響を及ぼすか更に考える。
第12回	スキル・トレーニング4:「偏見」「ステレオタイプ」「差別」が起こりやすいコミュニケーションの場面を設定し、ペアで実演する。	事前学習	各ペア実演のための準備をする。
		事後学習	実演した内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第13回	「非言語コミュニケーション」の特徴	事前学習	教科書 pp. 135～158 を読んでおく。
		事後学習	非言語コミュニケーションに潜む「メッセージ」は人間関係どのような影響をもたらすか考える。
第14回	スキル・トレーニング5:「非言語コミュニケーション」がもたらすコミュニケーションの場面を設定し、ペアで実演する。	事前学習	各ペア実演のための準備をする。
		事後学習	実演した内容を振り返り、講義内容との関連を確認しておく。
第15回	総括: 既習内容の振り返り、重要ポイントのまとめ	事前学習	既習内容について振り返り、総復習をしておく。
		事後学習	ディブリーフィングについて全体的にまとめておく。